

令和5年度 狭山市立 学校(幼稚園)学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方針について評価する。

※

【評価の目安】

A：よくできている。(90%以上) B：概ねできている。(85%以上)
C：あまりできていない。(70%以上) D：できていない。(70%未満)

| 領域 | 番号 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価委員から 評価(文章表記) |
|--------|----|----------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 評価 | 説明 | |
| 学校運営全般 | 1 | 学校の重点目標が明確である。 | A | ・組織の一人として、情報共有をより迅速に行ったりよりよい同僚性を築いていったりするためにできることを模索し実践していく。 ・毎月の安全点検日の点検について、担当者が確実に実施し、管理職は学期ごとに見届けている。 | ・児童が学校生活を楽しんでいる(児童評価A)ので安心している。 ・学校生活で子供たちが成長しているのに感謝している。 ・目標に向かって取り組む姿勢は評価できるが、その取り組む目的をしっかりと示した方がよい。 ・手本となる教員にも率先した行動を示すとよい。 |
| | 2 | 児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。 | A | | |
| | 3 | 教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。 | A | | |
| | 4 | 清掃が行き届き、学校がきれいである。 | A | | |
| | 5 | 学校の施設・設備は安全に管理されている。 | A | | |
| 学習 | 6 | 教師は、児童生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。 | A | ・発達課題を踏まえて身に付けさせるべき学習内容を教員が理解して指導にあたる。 ・児童自身が「この時間にどのような力をつけるのか」を意識し、ゴールを共有して主体的に取り組めるような問題解決的な学習過程の授業を展開する。 ・家庭学習の習慣化するよう、必要な学習を必要感をもって自主的に取り組めるよう、課題の大仕方や学習結果の見届けの工夫をする。 | ・家庭学習では何をどのように学習すればよいのか、わからなかったので取り組み方、内容などの細部についても保護者に周知するとよい。 |
| | 7 | 児童生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 | A | | |
| | 8 | 児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。 | A | | |
| | 9 | 児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。 | C | | |
| | 10 | 児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 | A | | |
| 規律ある態度 | 11 | 児童生徒は、進んであいさつをしている。 | C | ・自然と何度でもあいさつをする習慣作りをするために、日々振り返りながら挨拶励行を実践する。個人差や日によって違いがあるが、あいさつをされた側の嬉しさを伝えていく。 ・運営委員会が中心となって、あいさつキャンペーン等を実施し、委員の上級生が、朝会前に下級生等の手本となってあいさつ運動を行う。 | ・先生と生徒という立場を理解し、規律は守られていると思う。 ・いじめは、子供の世界だけではなく、大人になっても問題なので、いじめが起こる原因を起こさないことや小さなうちに取り除けるよう、保護者もかかわっていかねばならない。 |
| | 12 | 児童生徒は、場に応じた言葉遣いができている。 | A | | |
| | 13 | 児童生徒は、時間を守って生活している。 | A | | |
| | 14 | 児童生徒は、きまりを守って生活している。 | A | | |
| | 15 | 教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。 | A | | |
| 健康・体力 | 16 | 学校は、児童生徒の体力を高めている。 | A | ・業前の朝の運動は定着して生きており、児童はいろいろな遊びに取り組んでいる。 ・タブレット使用機会が増えたことにもなって、業間等に外遊びをする児童が減ることがないよう教員は留意する必要がある。 | ・休み時間の外遊びや体育授業での体力づくり以外にも、授業準備の手伝いをほめることで運動が苦手な児童の体育への参加意欲や参加態度がよくなっていることはよい。 ・保護者が教育活動に参加したいと感じられる工夫が必要である。 |
| | 17 | 児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。 | A | | |
| | 18 | 児童生徒は、健康を意識した生活をしている。 | A | | |
| 地域との連携 | 19 | 学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。 | A | ・保護者、学校応援団、地域の支援をいただく機会が多くなったが、打ち合わせ等を計画的に行い、より効果的な教育活動に結び付ける。 | ・地域には協力してくれる方がまだ存在するので、お互いにより効果が得られるよう連携を深化する。 |
| | 20 | 学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。 | A | | |